

# 愛知県の人口動向について

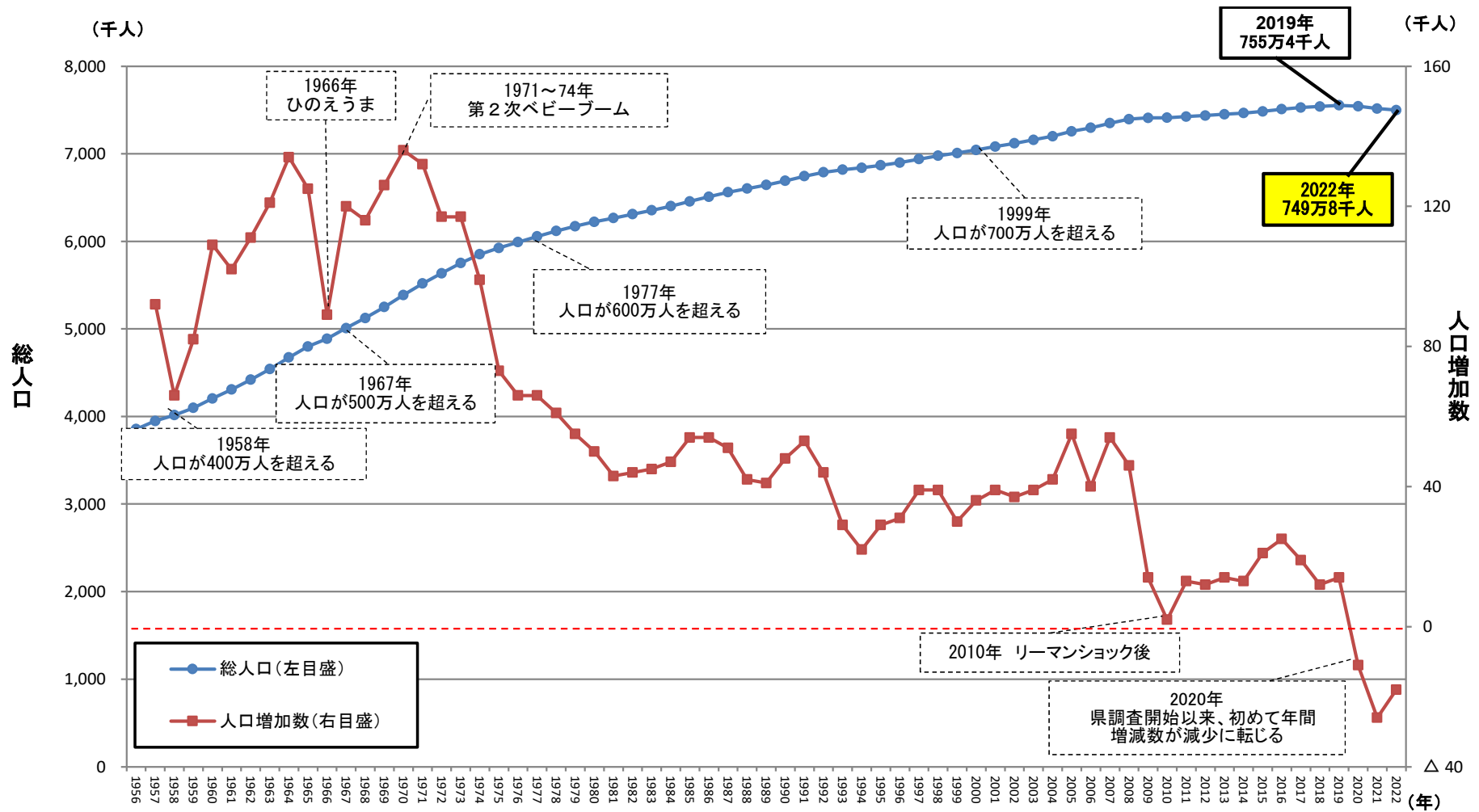
政策企画局企画調整部

地方創生課

# 愛知県の人口の推移



○ 愛知県の人口は、2019年の755万4千人から3年連続の減少となり、2022年10月1日時点で749万8千人。

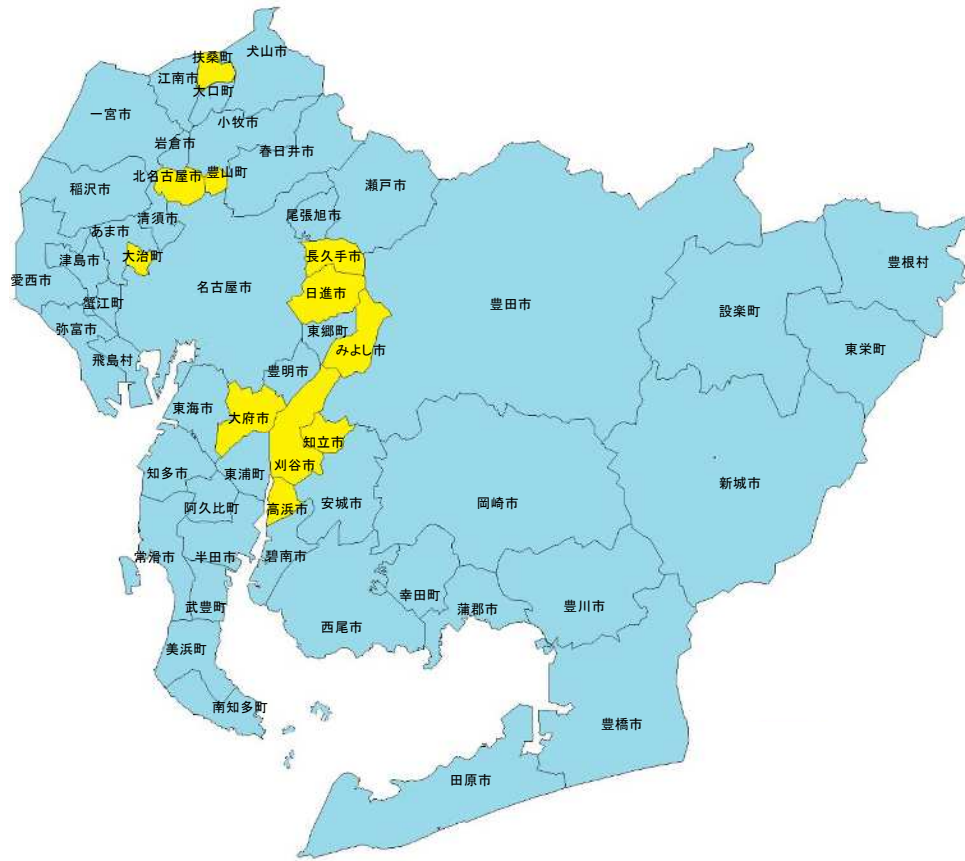


出典:愛知県「あいちの人口」をもとに作成  
 ※総人口は各年10月1日現在、人口増加数は前年10月～当年9月

# 市町村別人口



○ 直近1年間(2021年10月～2022年9月)の県内の市町村別人口は、日進市をはじめ11市町で増加した一方、名古屋市を含む43市町村で減少しており、人口減少地域は県内全域に広がっている。



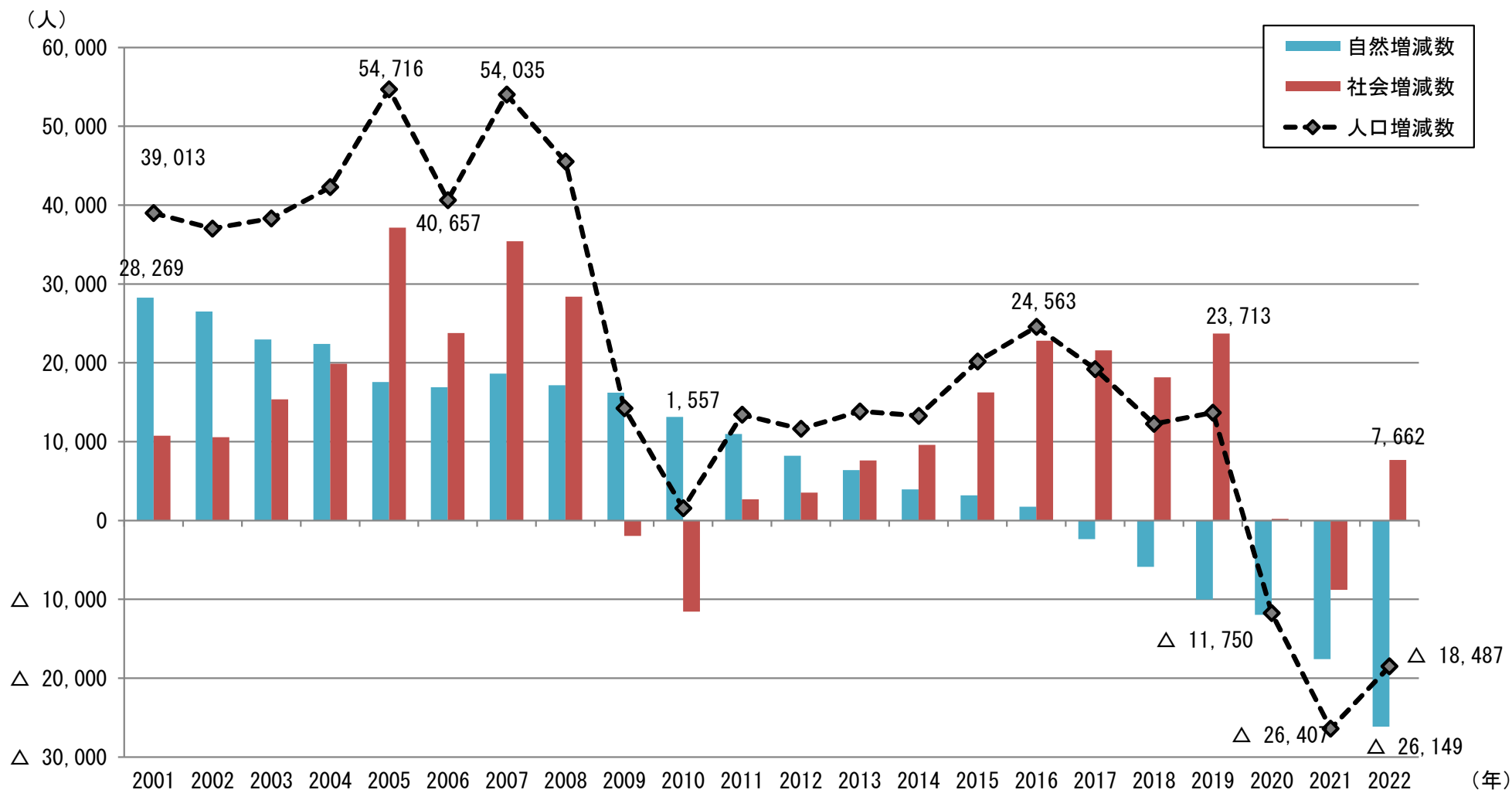
黄色 : 人口が増加している市町  
 水色 : 人口が減少している市町村

市町村名	2022.10.1 推計人口	2021.10～22.9 人口増減数	市町村名	2022.10.1 推計人口	2021.10～22.9 人口増減数
名古屋市	2,325,778	△ 138	岩倉市	47,710	△ 112
豊橋市	367,217	△ 2,371	豊明市	68,830	△ 139
岡崎市	383,100	△ 776	<b>日進市</b>	<b>92,804</b>	<b>723</b>
一宮市	376,327	△ 2,022	田原市	58,058	△ 557
瀬戸市	127,004	△ 526	愛西市	59,748	△ 572
半田市	116,128	△ 1,039	清須市	67,093	△ 282
春日井市	306,774	△ 929	<b>北名古屋市</b>	<b>86,331</b>	<b>52</b>
豊川市	184,357	△ 215	弥富市	42,641	△ 124
津島市	59,806	△ 455	<b>みよし市</b>	<b>62,156</b>	<b>222</b>
碧南市	72,217	△ 43	あま市	85,719	△ 296
<b>刈谷市</b>	<b>153,447</b>	<b>18</b>	<b>長久手市</b>	<b>61,024</b>	<b>536</b>
豊田市	417,256	△ 2,012	東郷町	43,632	△ 44
安城市	186,838	△ 543	<b>豊山町</b>	<b>15,724</b>	<b>77</b>
西尾市	168,209	△ 382	大口町	24,256	△ 56
蒲都市	78,651	△ 523	<b>扶桑町</b>	<b>34,257</b>	<b>47</b>
犬山市	72,471	△ 391	<b>大治町</b>	<b>32,735</b>	<b>163</b>
常滑市	57,978	△ 123	蟹江町	36,991	△ 113
江南市	97,068	△ 606	飛島村	4,417	△ 91
小牧市	147,174	△ 539	阿久比町	28,237	△ 105
稲沢市	132,992	△ 1,030	東浦町	49,654	△ 111
新城市	42,880	△ 632	南知多町	15,791	△ 411
東海市	112,937	△ 389	美浜町	21,938	△ 260
<b>大府市</b>	<b>93,019</b>	<b>30</b>	武豊町	43,267	△ 59
知多市	83,118	△ 672	幸田町	42,364	△ 238
<b>知立市</b>	<b>72,088</b>	<b>3</b>	設楽町	4,167	△ 166
尾張旭市	83,224	△ 166	東栄町	2,753	△ 89
<b>高浜市</b>	<b>46,223</b>	<b>28</b>	豊根村	943	△ 39
			愛知県	7,497,521	△ 18,487

# 要因別の人口増減数の推移



- 愛知県の人口の自然増減数は、2017年に減少に転じて以降、減少幅が拡大しており、2022年は△26,149人。
- 一方で社会増減数は、経済環境や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2021年は11年ぶりにマイナスとなったが、2022年は、7,662人の増とプラスに転じた。

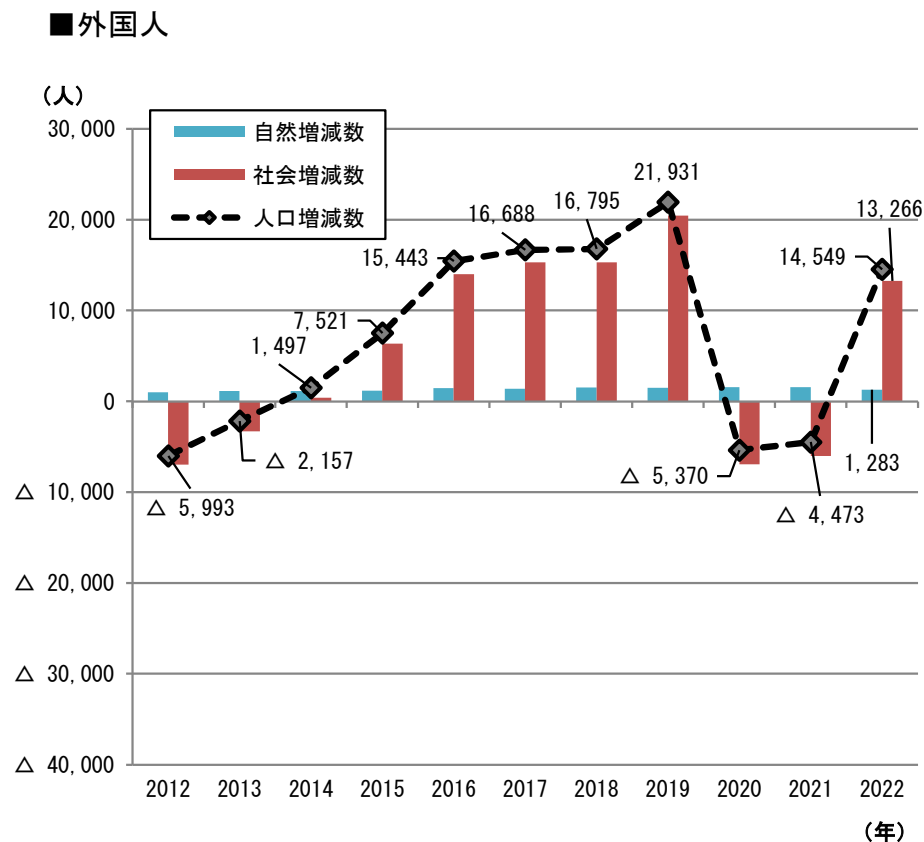
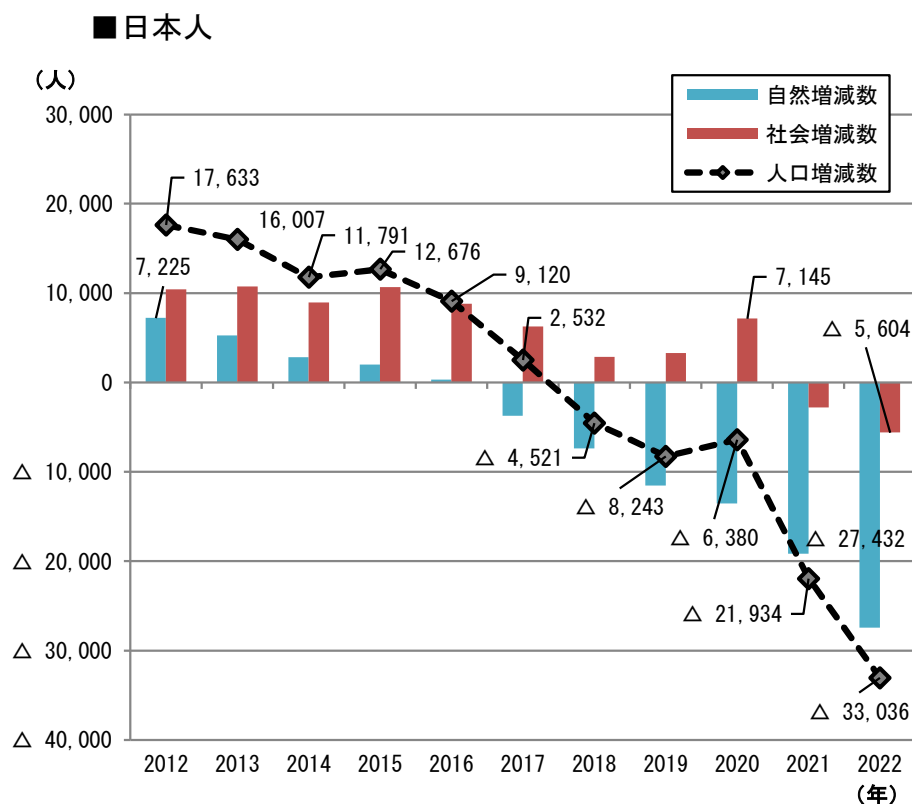


出典：愛知県「あいちの人口」をもとに作成 ※人口増減数は前年10月～当年9月

# 日本人・外国人別の人口増減数の推移



- 県内の日本人は、自然減の拡大に伴い、減少幅が拡大している。
- 外国人の人口については、2019年は年2万人を超える増であったものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入国規制により、2020年・2021年は減少となった。入国規制の緩和に伴い、2022年は再び増加に転じている。



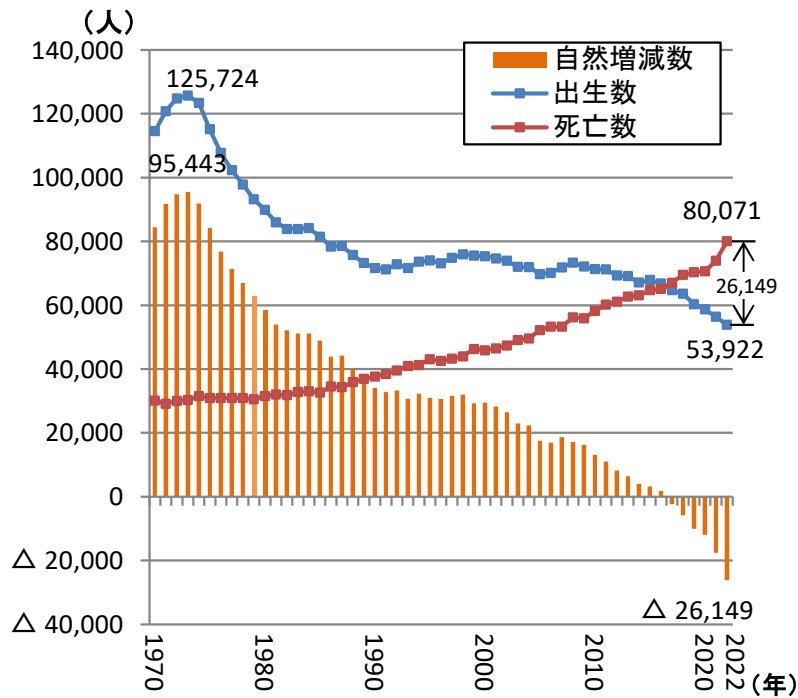
出典：愛知県「あいちの人口」をもとに作成  
 ※人口増減数は前年10月～当年9月

# 自然増減



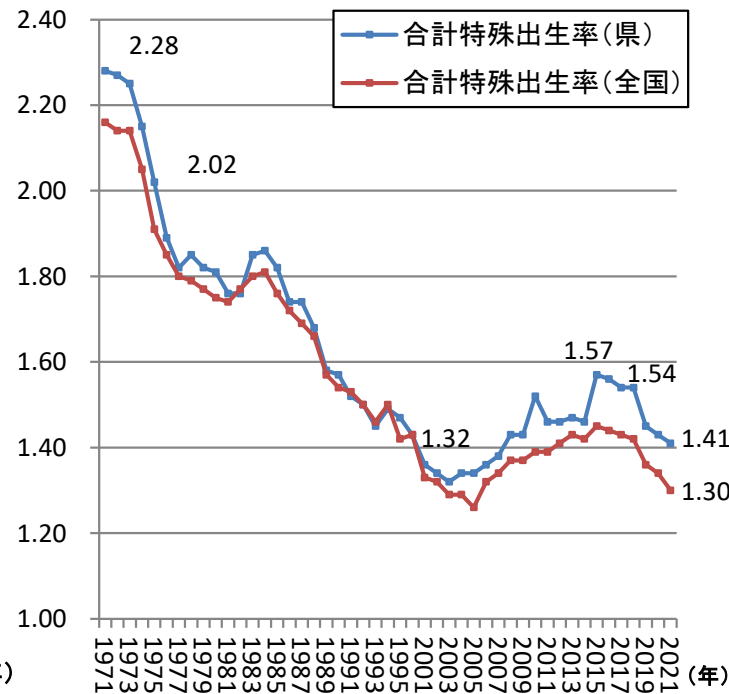
- 愛知県の出生数は減少が続く一方、死亡数は大きく増加しており、自然減の拡大が続いている。
- 合計特殊出生率は2003年の1.32を底に緩やかな上昇傾向が続いていたが、2015年を境に低下傾向となり、2021年は1.41。都道府県別では第23位で、大都市圏の中では高い水準。

■ 愛知県の自然増減数の推移



出典:愛知県「あいちの人口」をもとに作成

■ 合計特殊出生率の推移



出典:厚生労働省「人口動態統計」

※都道府県別合計特殊出生率

順位	都道府県名	合計特殊出生率
1	沖縄県	1.80
2	鹿児島県	1.65
3	宮崎県	1.64
4	島根県	1.62
5	長崎県	1.60
6	熊本県	1.59
7	福井県	1.57
8	佐賀県	1.56
9	大分県	1.54
10	鳥取県	1.51

23	愛知県	1.41
----	-----	------

39	大阪府	1.27
40	秋田県	1.22
41	京都府	1.22
42	埼玉県	1.22
43	神奈川県	1.22
44	千葉県	1.21
45	北海道	1.20
46	宮城県	1.15
47	東京都	1.08

全国	1.30
----	------

…大都市圏

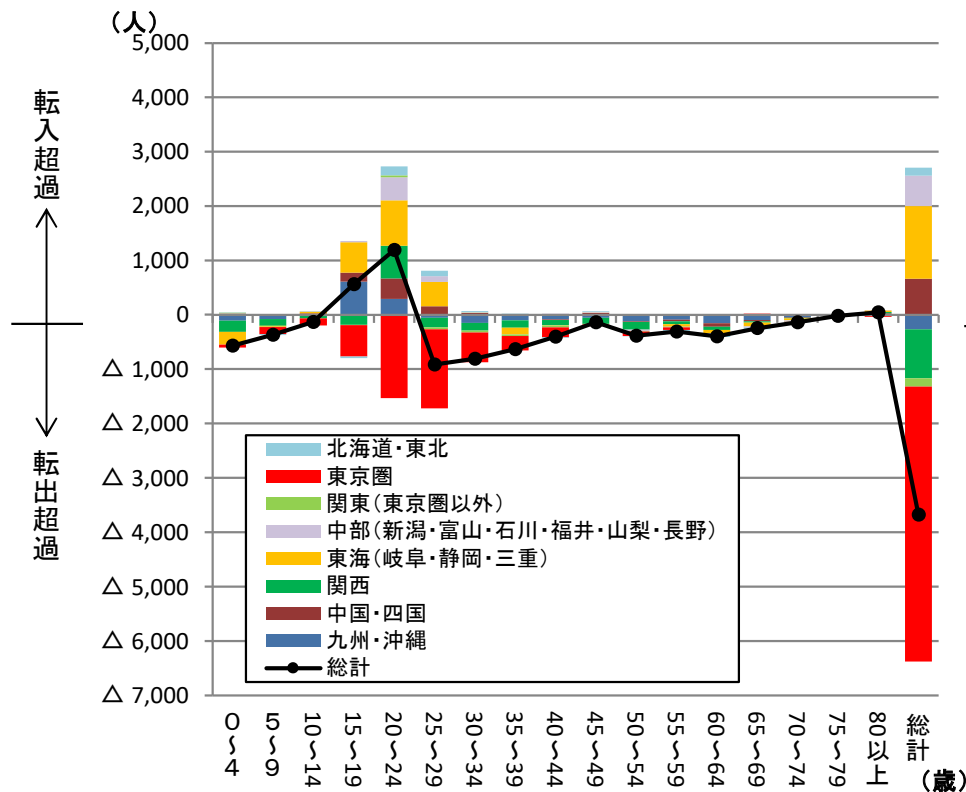
# 男女別・年齢別転出入超過数(国内移動)



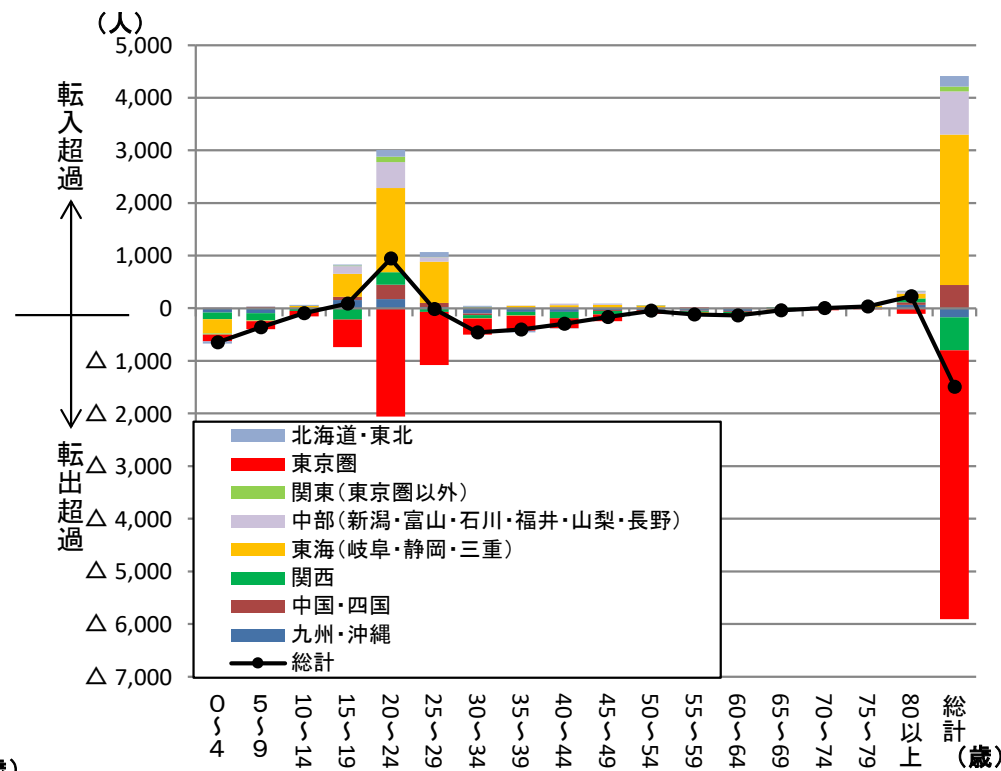
- 男性は、15～24歳で東海、関西、九州・沖縄などを中心に転入超過となっているが、東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)に対しては、20～29歳で転出超過が大きくなっている。
- 女性は、15～24歳で転入超過となっているものの、東京圏への転出超過数は、特に大学卒業後の就職時に当たる20～24歳が顕著。

愛知県の男女別・年齢階級別の人口移動状況(2022年)

【男性】



【女性】



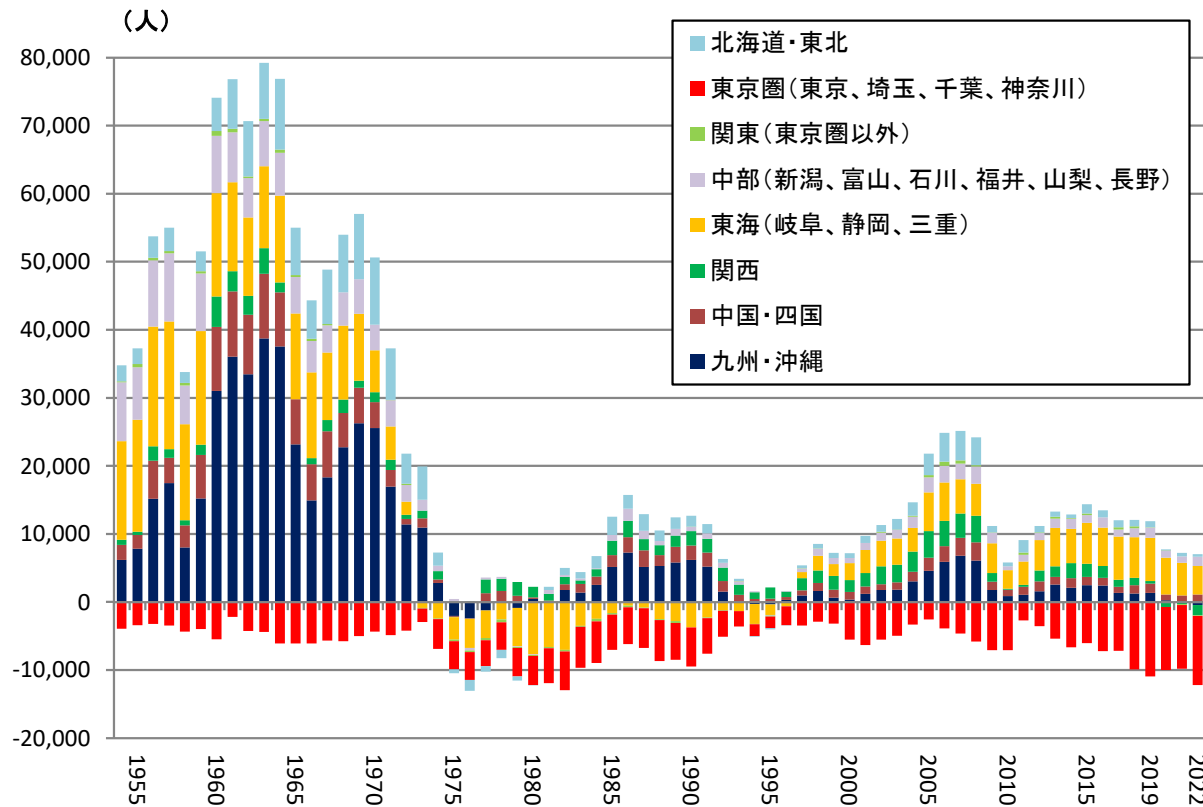
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成  
 ※2022年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

# 転出入超過数の推移

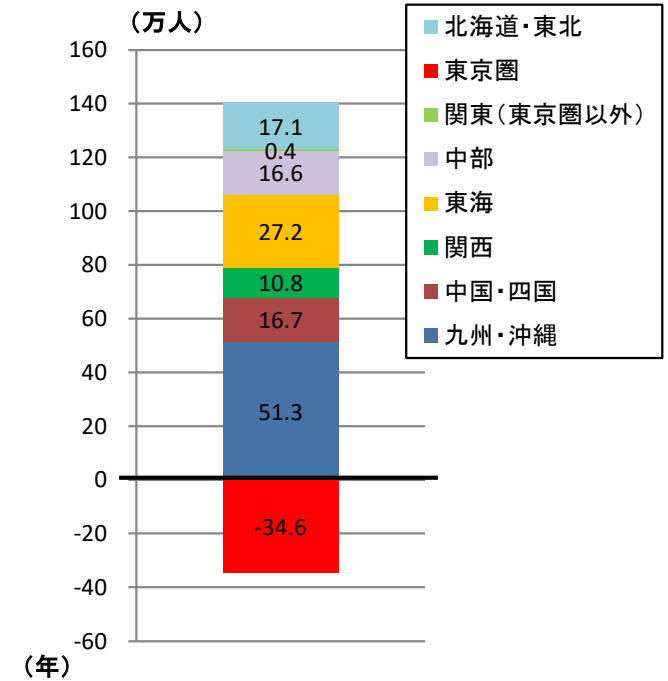


- 東京圏に対しては転出超過が続いており、近年では拡大傾向にある。
- 東京圏を除く地域に対しては転入超過の傾向が続いているが、超過数は減少傾向にある。

■ 本県と全国地域ブロック別の転出入の推移



■ 転入超過数累計(1954年～2022年)



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成  
※日本人のみ

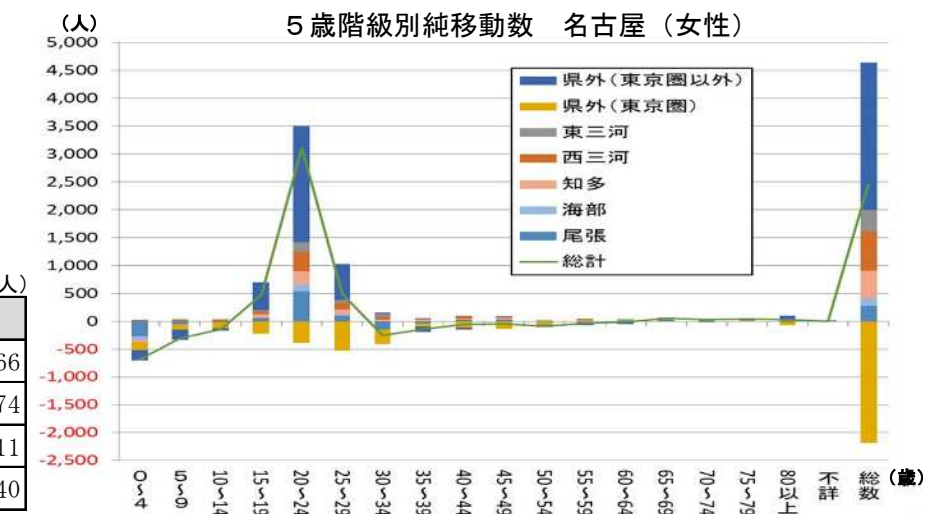
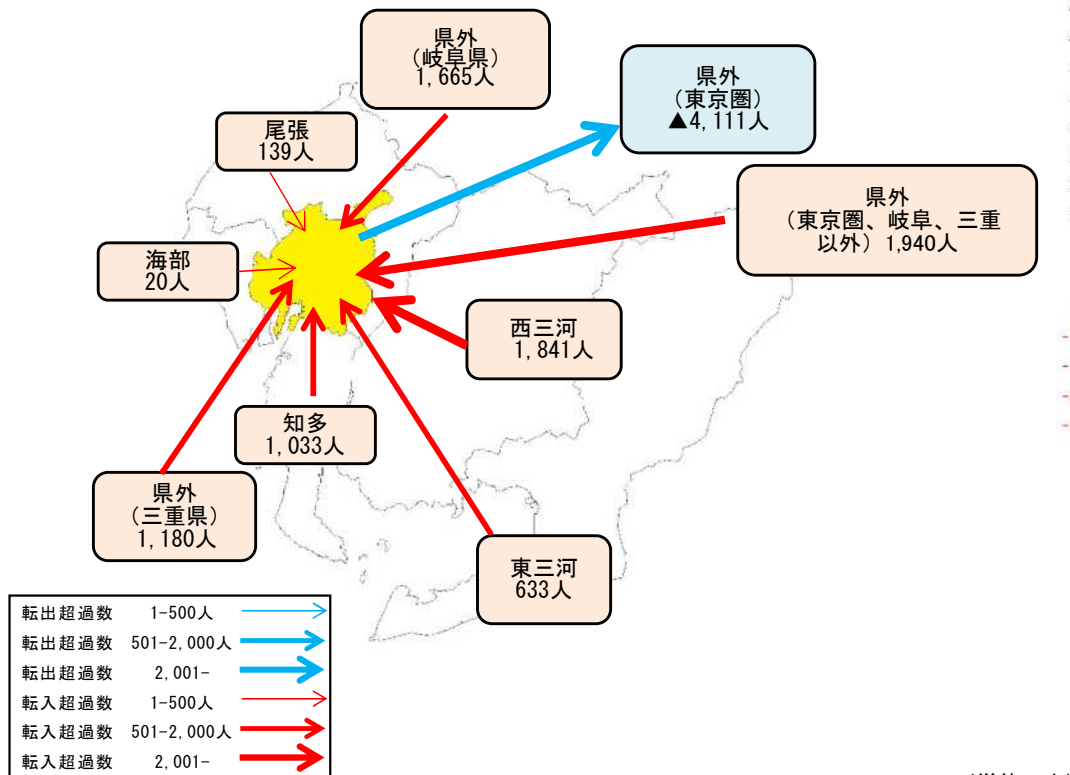


# 地域別の転出入の状況①(名古屋)



- 名古屋地域の転出入は、4,340人の転入超過となっている。東京圏以外は、県内外全ての地域に対して転入超過となっている。
- 男女ともに、20~24歳の若者層を中心に転入超過となっている。

名古屋地域における転出入の状況 (2021年)



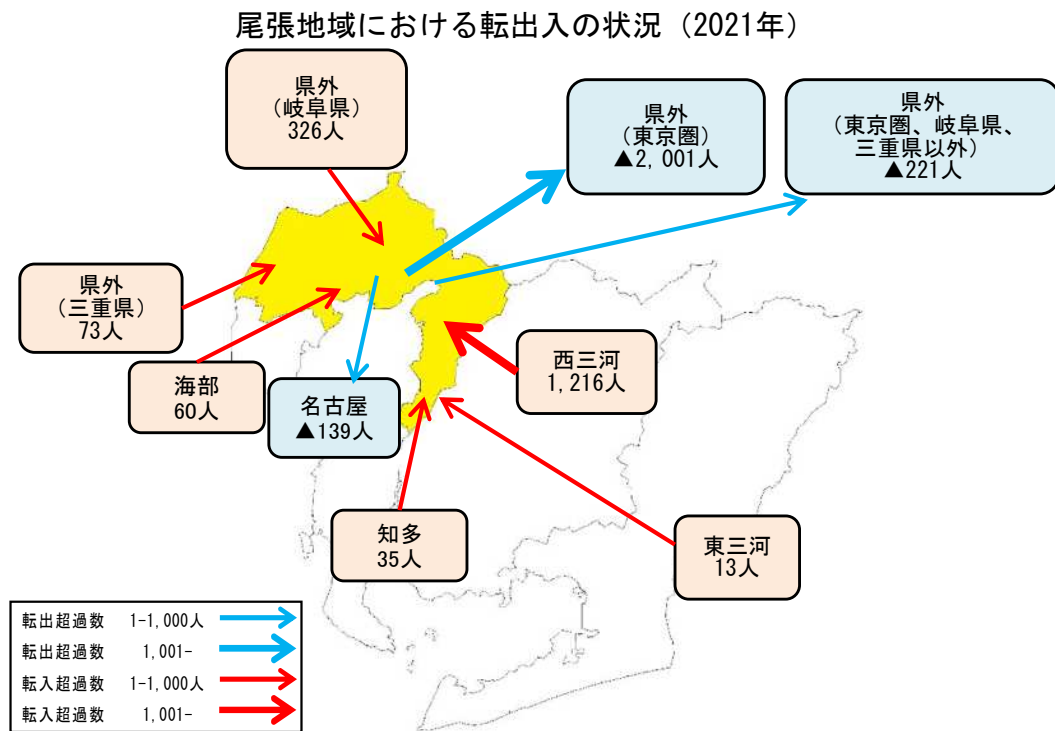
(単位: 人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数 (県内)	1,883	2,800	4,207	4,849	3,666
転入超過数 (県外)	2,991	1,641	2,546	1,758	674
転入超過数 (うち東京圏)	△ 2,936	△ 4,590	△ 4,700	△ 3,946	△ 4,111
転入超過数 (総計)	4,874	4,441	6,753	6,607	4,340

# 地域別の転出入の状況②(尾張)



- 尾張地域の転出入は、628人の転出超過となっている。名古屋及び岐阜県・三重県を除く県外に対しては、転出超過となっている。
- 男女ともに、20～24歳が転出超過となっている一方、25～39歳は転入超過となっている。



(単位: 人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数 (県内)	1,087	1,027	630	1,136	1,185
転入超過数 (県外)	△ 196	△ 748	△ 1,044	△ 1,362	△ 1,813
転入超過数 (うち東京圏)	△ 2,008	△ 2,349	△ 2,490	△ 2,035	△ 2,001
転入超過数 (総計)	891	279	△ 414	△ 226	△ 628



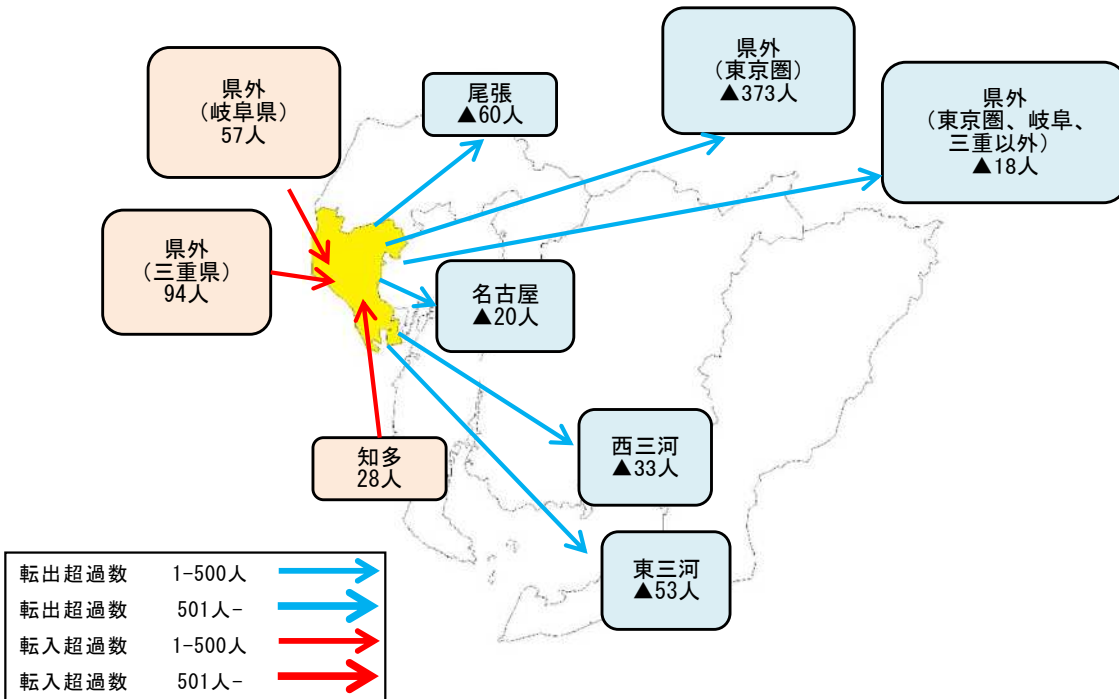
出典: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2021年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

# 地域別の転出入の状況③(海部)



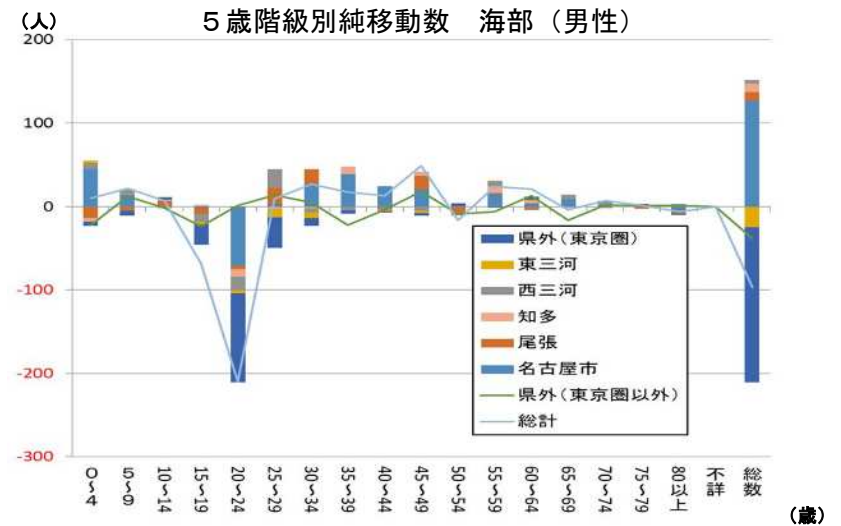
- 海部地域の転出入は、378人の転出超過となっている。知多及び岐阜県・三重県に対しては転入超過であるが、この他の地域に対しては、県内外ともに転出超過となっている。
- 男性は15～24歳が転出超過、女性は15～34歳が転出超過の傾向となっている。

海部地域における転出入の状況 (2021年)



(単位：人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数 (県内)	△ 95	△ 79	14	△ 279	△ 138
転入超過数 (県外)	△ 171	△ 353	△ 10	△ 442	△ 240
転入超過数 (うち東京圏)	△ 288	△ 365	△ 367	△ 441	△ 373
転入超過数 (総計)	△ 266	△ 432	4	△ 721	△ 378

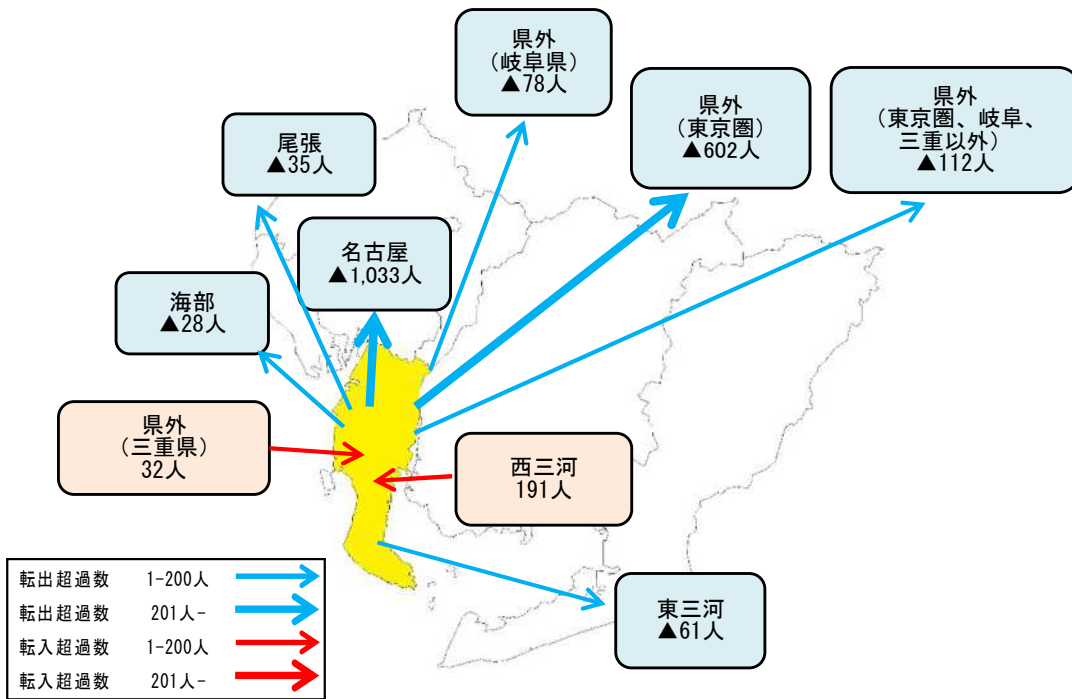


# 地域別の転出入の状況④(知多)



- 知多地域の転出入は、1,726人の転出超過となっている。西三河、三重県に対して転入超過、西三河以外の県内及び三重県以外の県外に対しては転出超過となっている。
- 男性は15～19歳が転入超過となっている一方、男女ともに20～29歳を中心に転出超過傾向となっている。

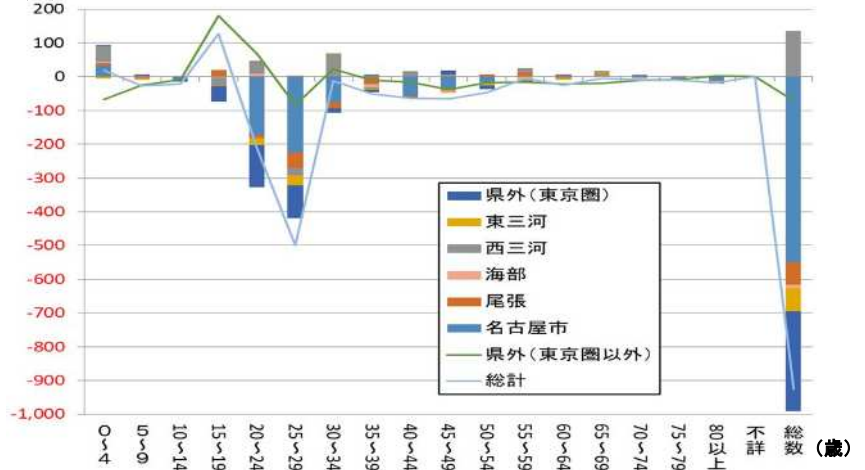
知多地域における転出入の状況 (2021年)



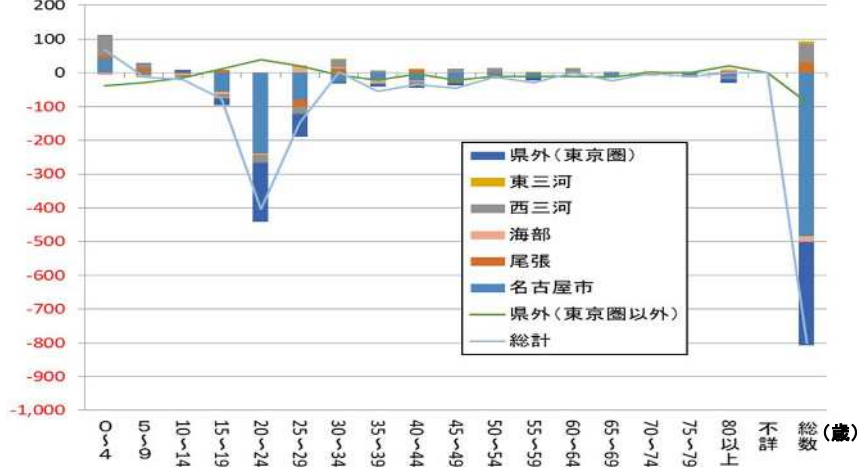
(単位：人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数 (県内)	184	△ 174	△ 159	△ 491	△ 966
転入超過数 (県外)	73	60	△ 185	△ 369	△ 760
転入超過数 (うち東京圏)	△ 428	△ 602	△ 669	△ 573	△ 602
転入超過数 (総計)	257	△ 114	△ 344	△ 860	△ 1,726

5歳階級別純移動数 知多 (男性)



5歳階級別純移動数 知多 (女性)

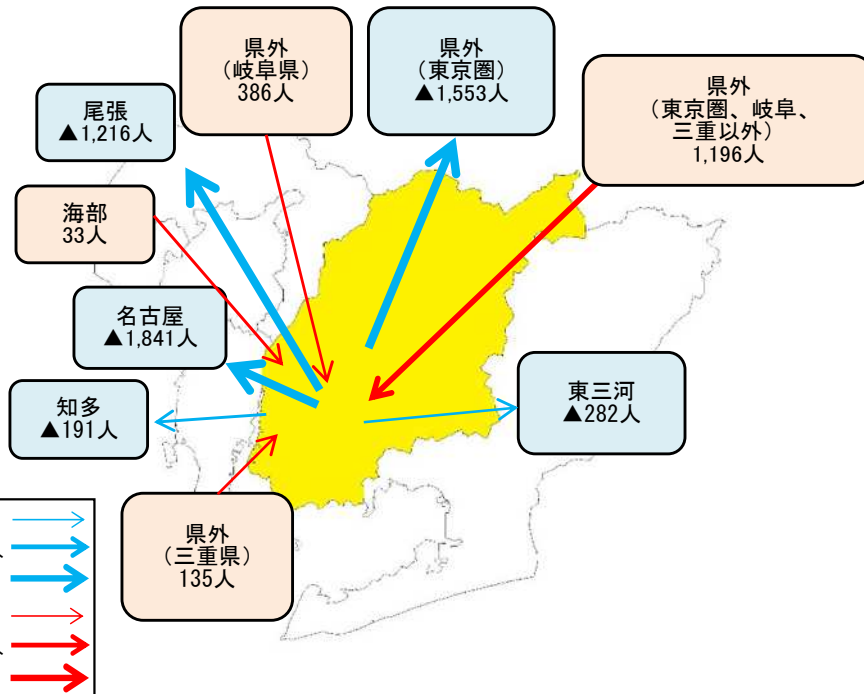


# 地域別の転出入の状況⑤(西三河)

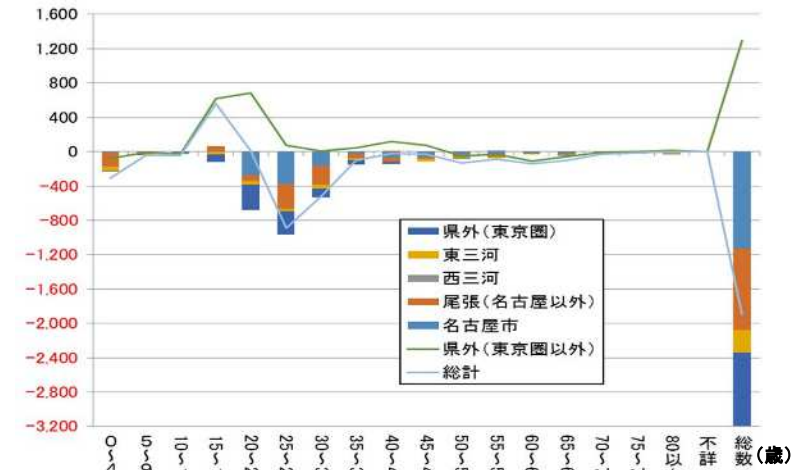


- 西三河地域の転出入は、3,333人の転出超過となっている。海部及び東京圏以外の県外に対して転入超過、海部以外の県内及び東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は15～24歳は転入超過、25～39歳以降は転出超過となっている。女性は75歳以上の高齢者を除き、転出超過となっている。

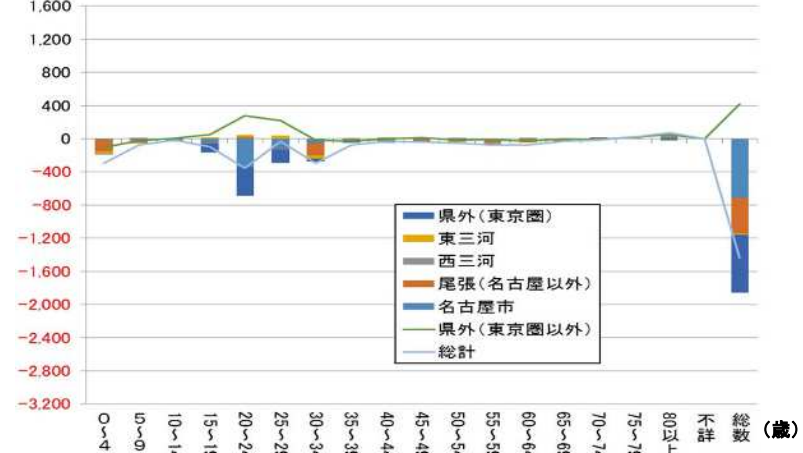
西三河地域における転出入の状況 (2021年)



5歳階級別純移動数 西三河 (男性)



5歳階級別純移動数 西三河 (女性)



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数 (県内)	△ 2,137	△ 2,824	△ 3,824	△ 4,400	△ 3,497
転入超過数 (県外)	2,474	2,169	460	△ 991	164
転入超過数 (うち東京圏)	△ 829	△ 1,120	△ 1,788	△ 1,647	△ 1,553
転入超過数 (総計)	337	△ 655	△ 3,364	△ 5,391	△ 3,333

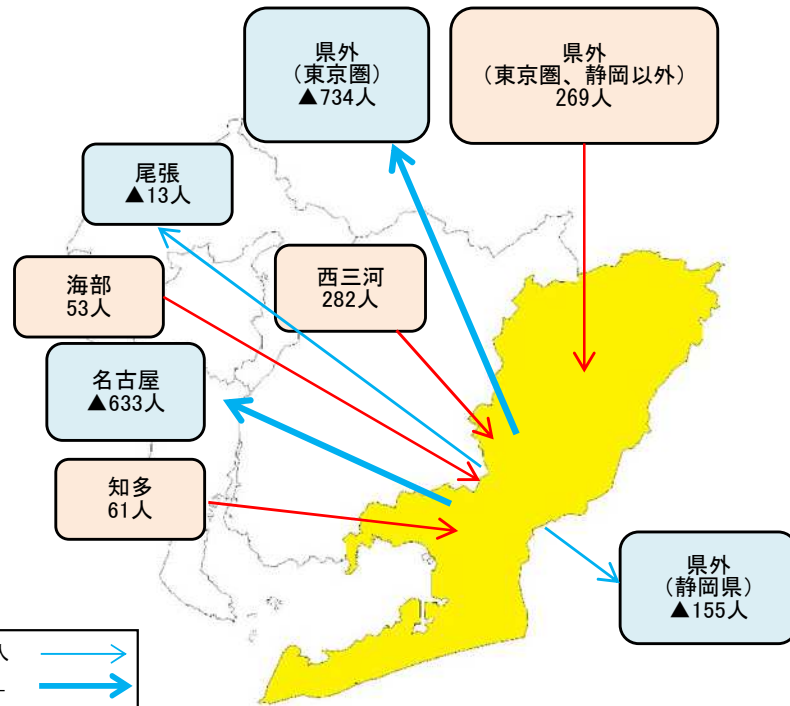
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成 ※2021年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

# 地域別の転出入の状況⑥(東三河)



- 東三河地域の転出入は、870人の転出超過となっている。海部、知多、西三河及び東京圏、静岡県を除く県外に対して転入超過、名古屋、尾張、東京圏及び静岡県に対して転出超過となっている。
- 男女ともに15～29歳を中心に転出超過となっている。

東三河地域における転出入の状況 (2021年)

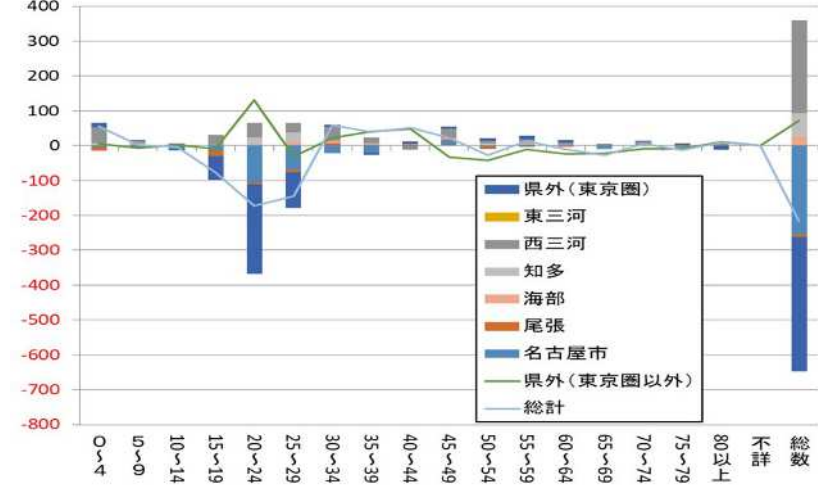


転出超過数 1-300人	→
転出超過数 301人-	→
転入超過数 1-300人	→
転入超過数 301人-	→

(単位:人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
転入超過数(県内)	△ 922	△ 753	△ 868	△ 815	△ 250
転入超過数(県外)	△ 332	△ 610	△ 798	△ 861	△ 620
転入超過数(うち東京圏)	△ 675	△ 878	△ 904	△ 625	△ 734
転入超過数(総計)	△ 1,254	△ 1,363	△ 1,666	△ 1,676	△ 870

5歳階級別純移動数 東三河(男性)



5歳階級別純移動数 東三河(女性)

